

優秀賞

過去は現在に 現在とは未来に

中央大学高等学校 1年 入澤 里名

祖父母の家の花壇にはある花だけが咲いている。その花は「ヒルガオ」だ。ヒルガオとは昼に花が咲くつる性植物。祖父母はそれをずっと大切に育てていた。私は初めあまり興味がなかったが、小学校一年生になり学校で朝顔を育てたときに祖母に聞いてみた。

「どうして朝顔じゃなくて昼顔なの？」

「それはね、陽だまりの中でおじいちゃんと眺める花と時間が好きだからよ。」と祖母は言った。それから私も興味ができて夏休みになると毎日祖父母の家の縁側で花壇の「ヒルガオ」を見ながら祖父母と話した。その時間が私も大好きになった。そんな夏が三年続いた夏の終わりに祖父が亡くなった。私は花壇へ行かなくなった。あの花を見ると祖父を、一緒に過ごした時間を思い出して耐えられないから。そしていつのまにか中学生になっていた。中一の夏休み、私は久しぶりに祖母を訪ねた。祖母を見るとずっと会いに行かなかった罪悪感で胸が締めつけられた。しかし、祖母は笑顔で迎え入れてくれた。昼食を食べればしばらくして祖母はあの花壇へ向かった。私は怖かったが、付いて行った。すると、花壇には祖父のいた頃と何も変わらない美しく凛としたあの花が咲いていた。私は祖父のいない今、花壇はないと思っていたが祖母は育て続けていたのだ。私は言った。

「まだ育てていたんだ。」

「この花は『つながり』だからね。」

と祖母が青く高い空を見上げて言った。私ははっとした。祖母にとって「ヒルガオ」は祖父や祖父と一緒に過ごした時間につながるものなのだ。祖母が一人で育て続けた時間、私が「つながり」を切ろうとしていたことに気づき、後悔した。だから私も祖母に倣って「ヒルガオ」を育て始めた。そして目の前で白く清しげな花が陽だまりの中咲いている。いつか祖父が言ったことが思い出される。

「この花の花言葉は『絆』なんだよ。絡まって長く続く蔓みたいにならずと大切にしなさい。」